

東南アジア

沿岸部でも液状化現象か インドネシアでJICA

2018年10月24日 10:06

【ジャカルタ=共同】インドネシア・スラウェシ島中部で9月28日に起きた地震と津波で、日本の国際協力機構（JICA）が派遣した防災専門家や研究者らの現地調査団が23日、ジャカルタで報告会を開き、最大被災地、中スラウェシ州の州都パルの内陸部だけでなく、沿岸部でも広範囲に液状化現象が起きていたとする調査結果を明らかにした。

調査に参加した国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所の佐々真志動土質研究グループ長によると、液状化は少なくともパル湾の5カ所での発生を確認。液状化に起因する海中への土砂の崩落が沿岸部で起き、津波を引き起こしたとの見方を示した。

東日本大震災などを経験した日本はインドネシア政府からの要請で、被災地の復興基本計画策定を支援。約25人が17～19日にパルとその周辺で調査した。



調査結果を発表する国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所の佐々真志動土質研究グループ長(手前左)(23日、ジャカルタ)=共同

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

No reproduction without permission.